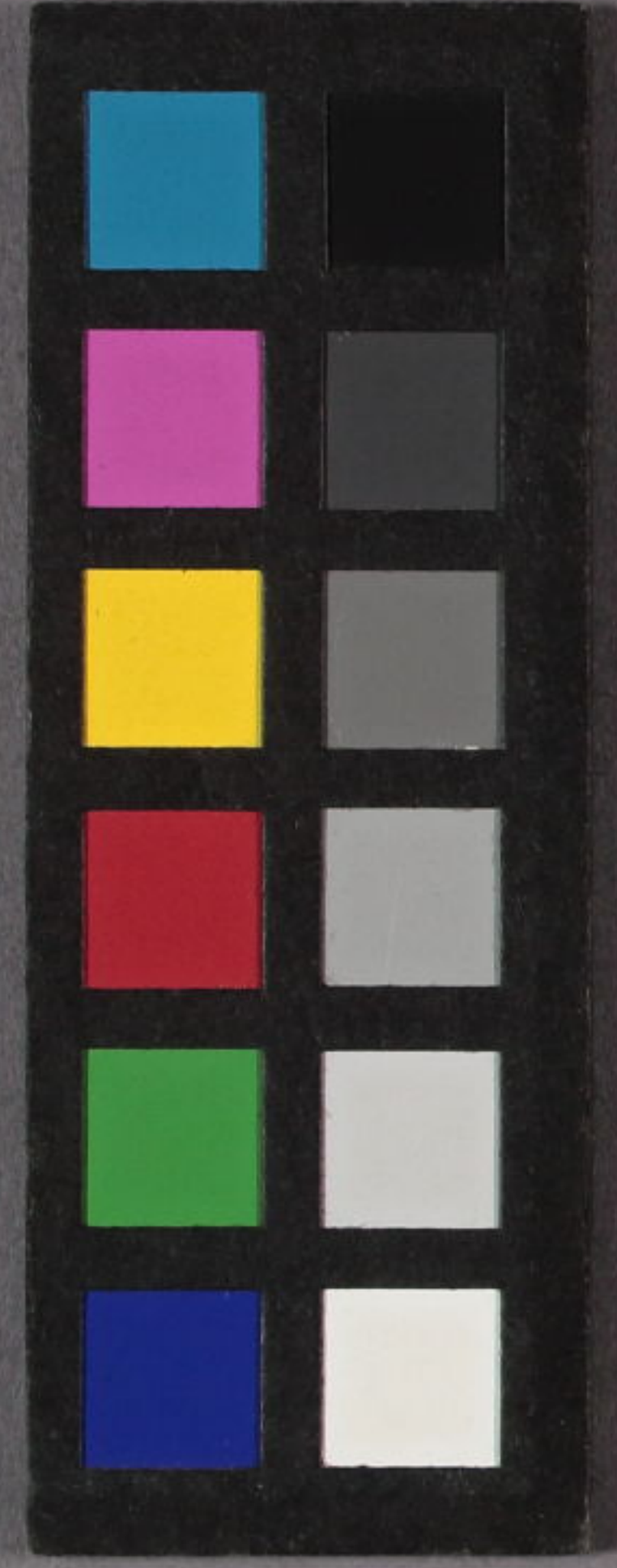




明 遠 18
1309
巻 1-8

親 美子

あつた

猫 女

明治三十九年一月三九日
水谷弓彦氏寄贈

若 姑 富 貴 久 在 港

猫 残 幣 中 芳 芳

病 ん で つ り や ー じ ー け ん ー

春秋二季種

白居易詩 人皆一癖

宜有海人 癖あるもの

正字通 癖あるもの

病と見え 癖あるもの

酒成春毛 癖あるもの

失心 癖あるもの

水谷弓彦氏

嗜好病カウカウに甚多しカマカマ先其一二カマカマ銭カウ舉カウ多カウ婦カウ女カウ子カウ病カウありカウ美食を喰カウ多カウ病カウありカウ美服を着カウ多カウ病カウありカウ黄金の河カウ歩カウ癖カウありカウなカウ病カウありカウ病カウの冠カウたる者カウとカウそんカウの其カウあカウまカウけカウ病カウ我カウ集カウ知カウ者カウなカウがカウの病カウ屋カウのカウじカウ来カウの二カウ季カウ種カウの

二編カウ病カウ書カウ今カウとカウとカウ雖カウもカウ兎カウ角カウナカウなるカウ病カウの止カウるカウ今カウ目カウとカウ過カウ習カウ月カウとカウ美カウれカウとカウ金カウ幸カウ堂カウのカウ小カウ僧カウなるカウ病カウなるカウとカウ見カウえカウるカウ豆カウ銭カウ浪カウりカウ月カウとカウ催カウ侶カウ留カウ守カウもカウ虚カウ病カウをカウ案カウてカウのカウ盡カウしカウ一カウ文カウがカウとカウなるカウ病カウのカウ金カウのカウ何カウもカウ病カウ忽カウ發カウしカウ一カウ夜カウはカウ多カウ病カウ急カウ著カウ述カウ氣カウの



利^き多^た化物^{ぶつ}を^を引^ひ出^です^す時^{とき}分^{ぶん}燈^{とう}火^かを^を
 うきまなぐら^{うきまなぐら}序^しら^らる^るあ^あの^の成^{なり}書^{しよ}
 如^{ごと}くし^し有^あ文^{ぶん}心^{しん}與^よ余^あ反^{はん}討^{たう}

江戸前の隠居

竹菴梅房の誌之



小
方
春
画



玉川の水

雪の肌

島田

島田

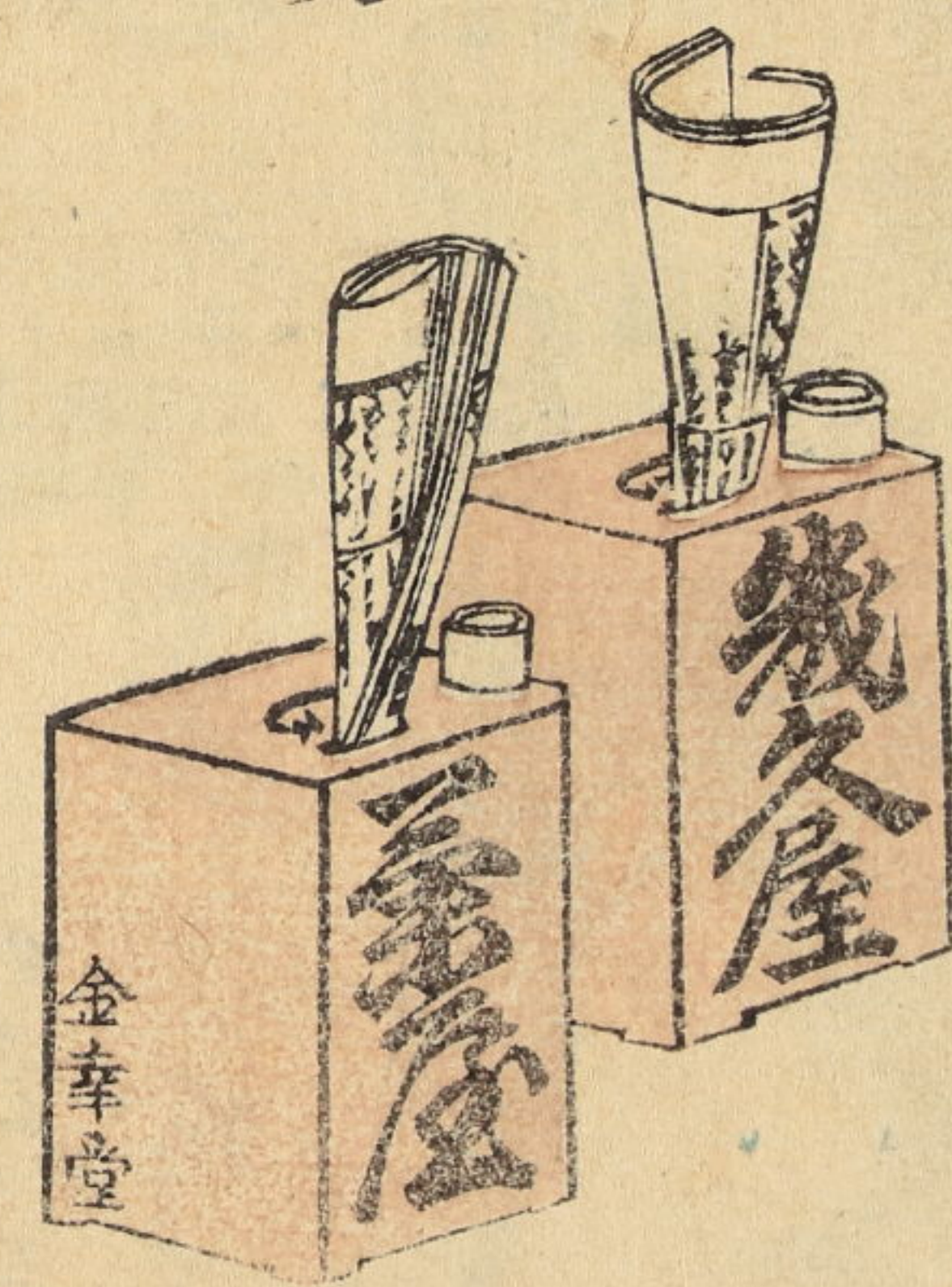
雪の肌

島田

雪の肌

島田

雪の肌



三亭春馬種初編卷之上

三亭春馬作

第一段

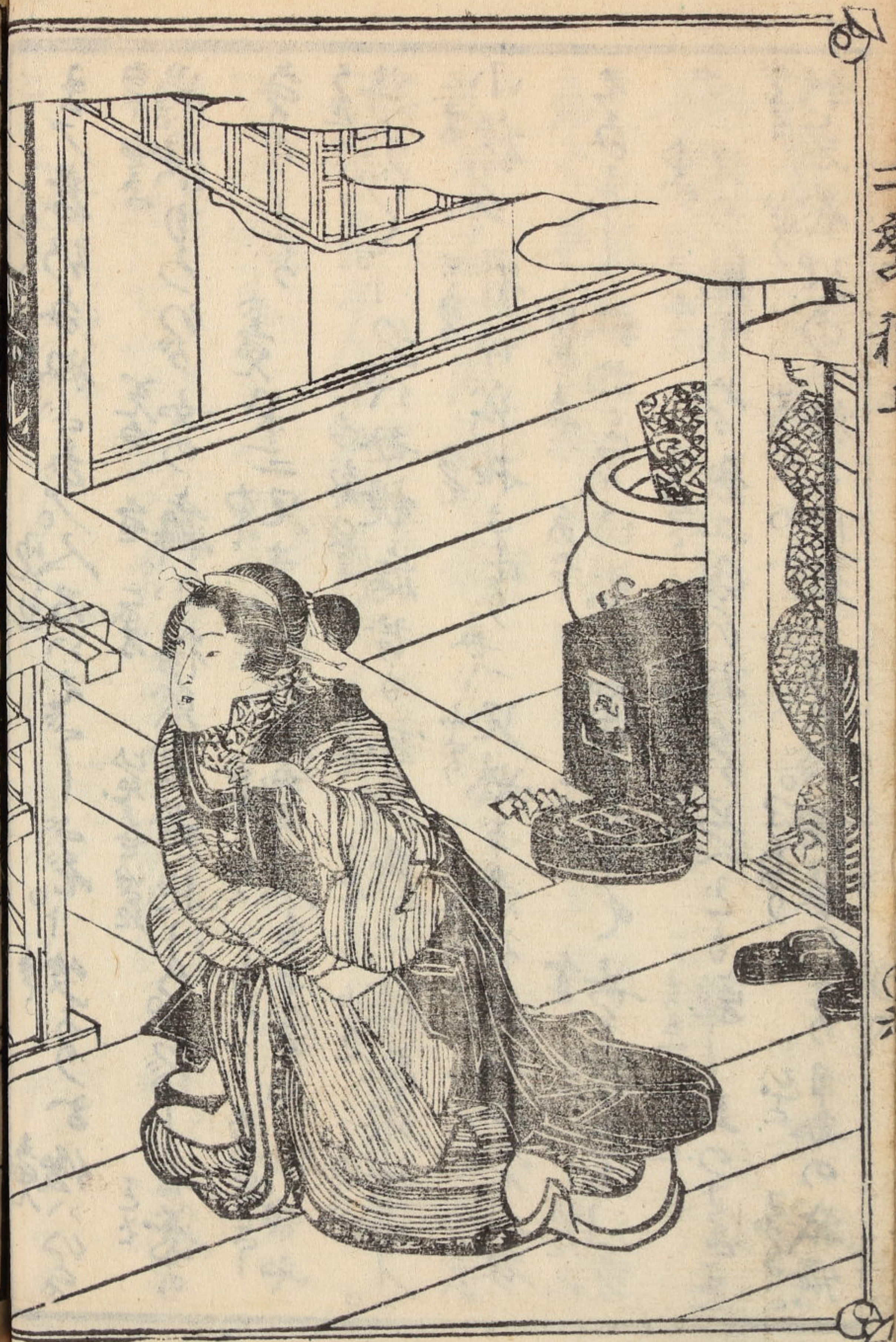
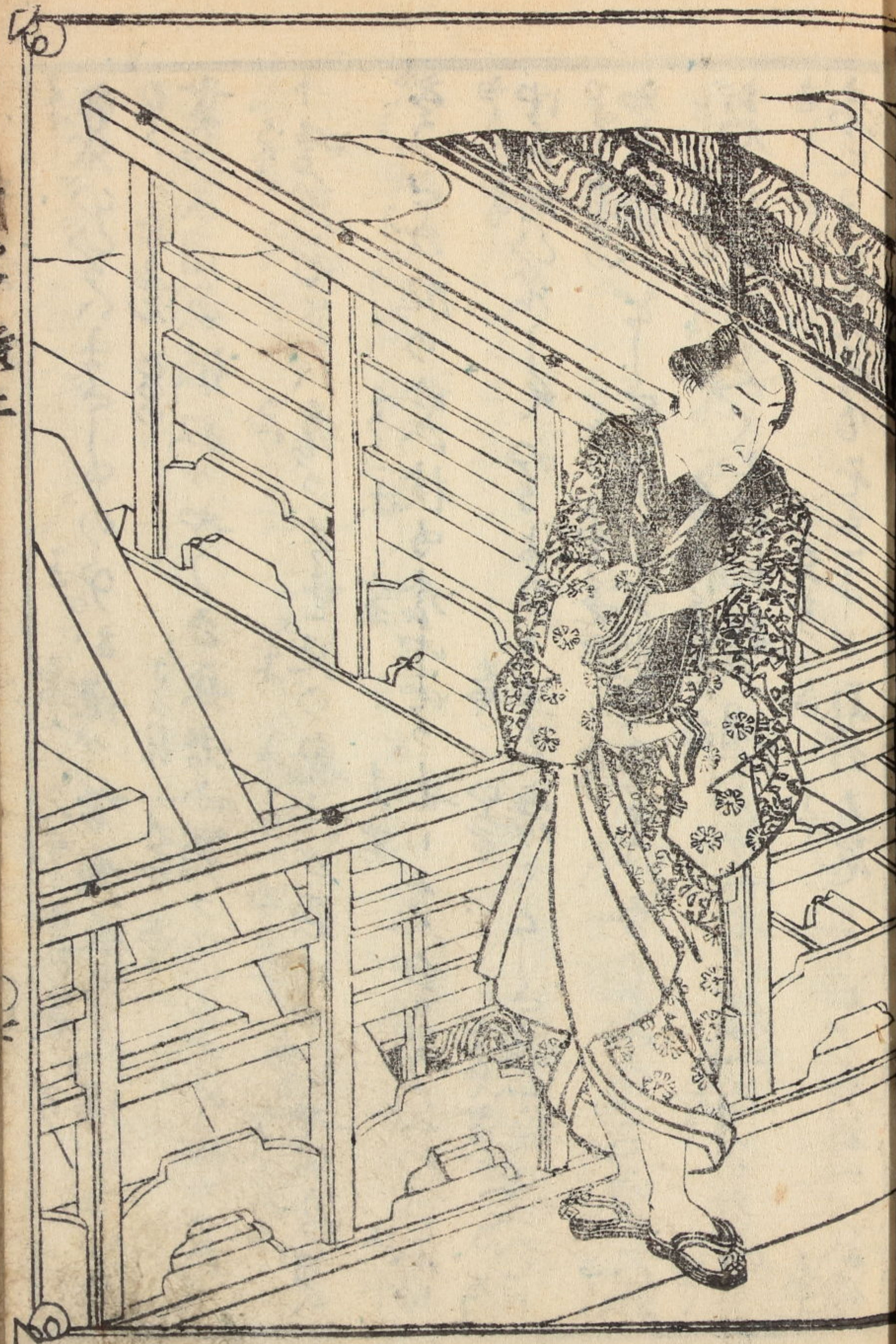
世渡りの一本綱ハ。煙葉所が不踏外を。ひふ。て身代の
ふてま。やえ。大敵。運。天。あ。と。気。あ。く。お。バ
不。丹。勝。も。柳。多。藤。多。成。結。是。江。小。屋。が。ま。あ。く。大。も。吟。ほ。し
の。も。急。急。勢。む。妙。ハ。種。い。小。進。身。突。え。あ。く。と。世。渡。成

まゝに
 よくちり。細き網張とていづる。親ふ二人の考ありけや。其六十
 三
 ふをらむ。長の病はふ病をうけ。未だ洗滌人仕置も。あまね
 ぢうそ
 斗の床のうへ脈のか後が習ひえし。平澤璃理の杜松を身
 と助けする不仕合な處で廣く疾光動せても。いまど勢長の中洛ろうまど
 十八の義登。実入些ま女業無量也をも不孝なり。娘往行お企と
 まも。今こ知れて良員連永もふさううむ外。増一。玄。常。
 うでたり。己己か機要の癈方その涙かあがせん小治之れ
 ると極く夜の病風ふ際う家に必ずとも小治中書房み

ありえりえり。さく。我を。や。考へ。と。歌。く。事。
 今。改。く。り。ふ。び。る。ま。が。僅。の。ゆ。の。状。あ。え。丁。成。む。お。の。ば。の。
 清。親。父。あ。の。と。く。丈。将。別。と。そ。と。く。と。歌。の。名。下。と。見。の。と。
 清。親。の。懐。と。く。十。年。磨。り。を。そ。う。と。お。お。の。美。と。清。璃。
 理。で。序。へ。あ。る。や。ふ。あ。の。く。く。へ。せ。将。と。と。多。く。と。と。と。
 亦。此。ま。長。の。病。の。寡。ぐ。の。の。ま。の。内。の。あ。る。と。と。と。の。
 九。つ。ろ。ひ。清。丹。小。家。内。へ。あ。る。や。そ。中。へ。と。と。と。の。小。附。
 熱。心。の。鬼。十。が。熱。心。と。と。と。の。心。合。力。と。と。と。の。心。合。力。と。と。と。の。心。合。力。

ありきどがい後あさぐあかあ成あ大あ切あとあああさあんあんあ。天あ下あさあのあのあ
 いいさいふいまいひい。そのいかいあいるいやい。且い船い方いのい置い負いふいあいるいといもいべい。
 ありあわあのあうあ。ああがあうあてあくあ。悔あ涙あぐあやあくあらあむあるあ。就あ成あるあのあ
 小こまこるこ者こ大こ夫このこ身こがこあことこいこへこわこうこうこのこ肉こがこあこまこ本こあこうこ
 一いついのいあいづいくい及いないぬいあいおいのい病いれい妹いといいいまいづい。おい後いがい
 孝こめこ小こ一こいこまこるこ志こぎこ。げこ兄こがこ親こまこうこいこれこどこもこおこんこでこ
 中なおな。入いれい又いれいまいんいのいあいるい。さいうい夜いがい身い成い賣いるいもい
 夢むさむんむやむあむあむ小こ替か旁はちちうちとちもちまちまちうち。哀あくあそあんあかあ

[illegible]



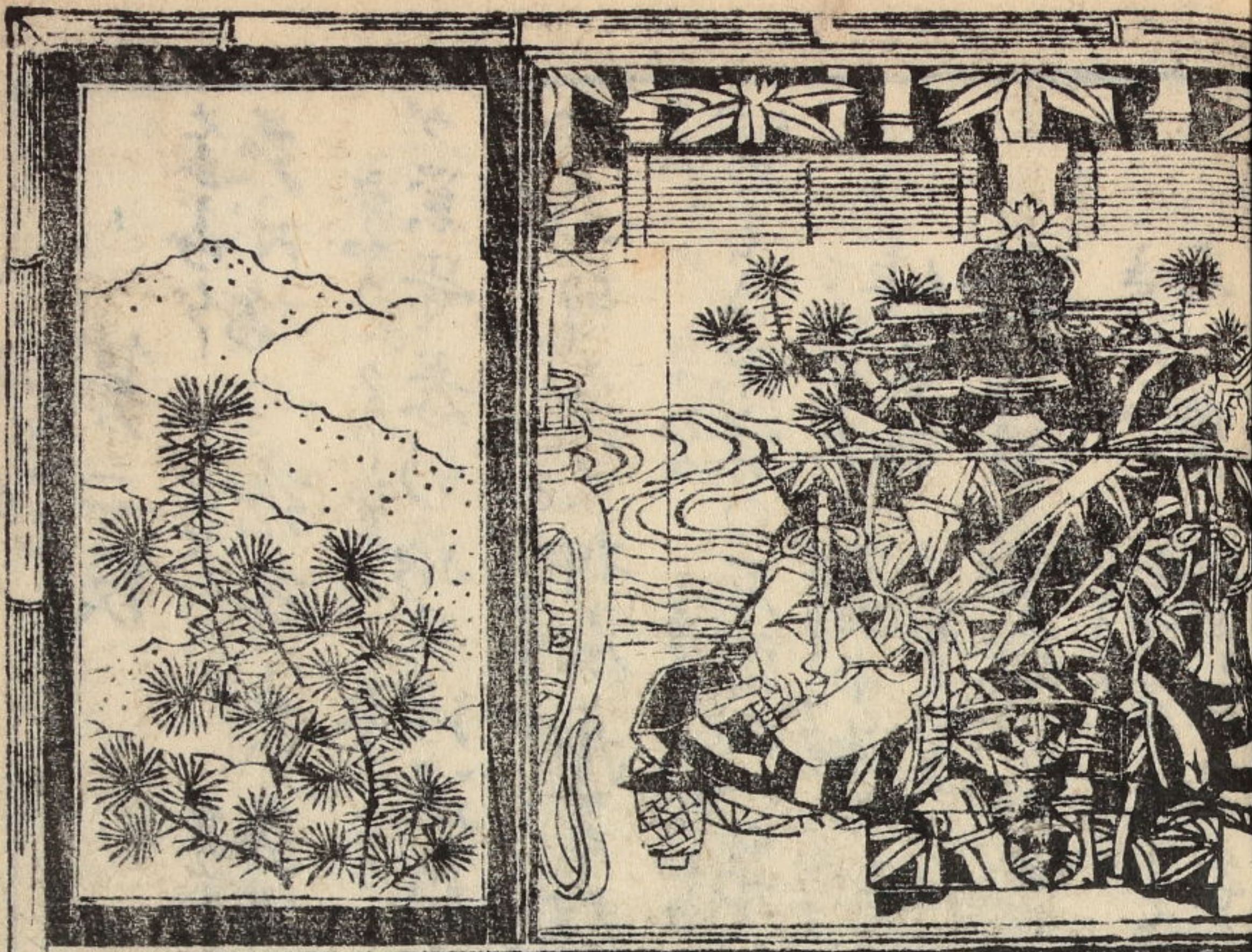
[illegible][illegible]

二卷

[illegible][illegible]

鬼ア^ワ 延^レく^ル事^ハア^リ何^レと^ハ然^レル^ル事^ハナ^シ 那^ハ所^ハ有^ル 換^レ所^ハの^レえ^ル事^ハ茶^ハ漬^ハへ^テも^レ連^レく^ル様^ハ一^ハ盃^ハ飲^ミた^ル事^ハ 飲^ミる^ハの^レ下^ニも^レ連^レ文^ハ張^リて^ハる^ル様^ハそ^レと^ハい^ハ所^ハ 仲^ハ交^ハへ^テも^レ其^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハあ^ハア^ハは^レ十^ハ分^ハ小^ハ使^ハね^ハ那^ハ奴^ハ と^ハ已^ハと^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハが^ハア^ハ其^ハの^レ様^ハさ^ハあ^ハき^ハも^レ好^ミて^ハる^ル事^ハ二^ハ人^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ ね^ハね^ハき^ハう^ハ 其^ハの^レさ^ハは^レ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハあ^ハア^ハは^レ十^ハ分^ハ小^ハ使^ハね^ハ那^ハ奴^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ

鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ 鬼^ハが^ハ二^ハ人^ハ赤^ハ馬^ハの^レさ^ハは^レと^ハい^ハア^ハ多^クも^レね^ハ母^ハく^ハや^ハく^ハよ^クと^ハい^ハね^ハ



竹小竹
竹小こ
竹小後

和歌
能おもてふ
新口村後
忠良大目付

中幕のねえふがらう。リヤ家月
かきうのうきくわのぞと
やまのねえ
やまのねえ
やまのねえ

[illegible]

五三
 東へくやあゝとて津路にきりぎりす
 〇赤坂の西面より入連の男一人に坂ち後が兄の鬼十
 今一人ハ三十七八のきつる男を衣士と爲ちて
 兄十やふお後がと云んきつるのえ現在をちが
 妹でさうき又妹が兄のりきつとせぬといふも余威光の
 病のりど身たをてえさの武吉をおさんとまニツまゝに
 少鬼へて教中たねはたつても無縁中りやア威光の光
 ざのといふはあやのきやせん鬼角今時の光とてきつちやア

内利を興ありやせん。かあまんの心算計でか後とふふ入るま
 はい鬼土が物守おはゆがありやま。はねる所ぢやア込入る
 咄もあややめ。中紙修く修くさうちあをい定てのり
 て子モ。後修を定てさゆ勿き。言やイ修耳
 修のい物あが物中く。鬼へ春込ます。トスグ修をささ
 実耳で。さく修ともあふ菊の花の。あふ修の甲注瑠
 修も修りとりぬ。大ぜいへ惜い。

春秋二季種初編卷之上畢

里の種 春秋二季種初編卷之中

三亭春馬作

第三段

まま方多うあま。やづれよ多あが。ま
 義雄。鎌倉山の里月夜。水橋とゆえ。八家。あふさ
 振ひの。く。方。彼。方。ふ。少。秋。修。り。さ。う。あ。ふ。い。か。持。の。修。の。ま。る
 子。修。渡。り。の。身。の。種。業。る。た。ふ。本。た。れ。の。教。と。教。ふ。あ。ぞ
 量。所。の。教。育。振。り。さ。う。び。修。の。中。ふ。を。と。く。長。い。橋。の
 た。り。と。あ。ふ。修。い。あ。ふ。ま。の。系。存。女。人。修。注。さ。る。洋。瑠。理。あ。れ。

[illegible][illegible]



[illegible][illegible]

二季和

長理の次を理づゝまのぐの平あがき考るうあふ
 せく安んたるをいつて居るさんか。秋なるひく勿体
 まの。さく窓外の情一めあませう。ト秋風来たりをきぬ
 入る兒十幼な弟鬼一母人今日目ハ些ハいう子母一兒
 十うよくあゆむとてをふれどもい骸。なぐむるが矢張
 分の業。長生まれば心多し。とてを愛れ目あふ。ふれ弟
 さん同たでもあつと。ち方いつぞやの今あるであろうと
 鬼イヤミう所の沙汰あアむれでも今日再ハあへく

減き極へと性文ありふ衆といひて元あるふたをかくるゝ
 まう知とやアあ極へ入りのや今日わびぢやアあるめ
 あ極えんそまのわやアのけわへどうなるぞ余まり
 おれの毒を袖ぐりつたふあひくゆといへようろうとま
 べさまり人飛こので中食のまも。今日いそねともお返ーやを
 接しで極まゝど。どうもまごき金の初金グ入物取へと
 のふのろ。お本極へお本何もお理ふとせんろと無程のそね
 海以ゆるるもせだ返されもあ極らう。維は性文の文面の

出立いだしだてなるなりと先さき其その六むももぐりぐり一ひとままくく兒こ十じゅう常じょうくくののうちうち結むすてて呉くれ。今いま
 ちち度ど糸いともも帰かへるるべべああららうう。そそううままののうう相あひ持もちてていいちちがが氷こほり知しええ
 ままれればば。いいちちがが懐かああるるふふ帰かへるる今いまちちののうう車くるま先さきををててよよののうう。
 ののううかか後あと一ひとちちももそそままででうう返かへささううののううとといいちちががいいちち。
 知しりりもも一ひとちちののううをを足あしままんんぐぐいいちちののうう返かへぐぐああららうう。今いまままへへ返かへささばばいいちちののうう。
 いいちちががああららううののううああららうう。鬼おにへへそそりりやや知しりりももそそままででうう返かへささううののううああららうう。
 ああららうう。今いまりりんんぐぐびびっっててかか景けいででああららうう。喉のどととああららうう返かへささううののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいちちののううああららうう。一ひとちちののううああららうう。
 一ひとちちののううああららうう。息いきせせたたううののううとといいち

[illegible]

[illegible][illegible]

魚がひくは成成まふはふまふは振掛ひ掛ひ掛るま
 魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん
 魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん
 魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん

魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん
 魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん
 魚の成の方より掛の男「かくお娘さんどう〜」とせ。先刻
 か娘さん「はるる今日お娘さんおひく。お娘さんどう〜」とせ。二匹娘
 方掛りのお娘さんより掛り「お娘さんどう〜」とせ。お娘さん

[illegible][illegible]

のど掃除中毎日一う人ふそめ成るやうにやうう
なる形のも智恵の移へん。ちのちと移るうの移人
あえさるゝあちねびア一生訓導の成りせしあ
まアあ移。さう清内はえんきふあまきさて好心の
あ人ぐさうさうぢわアはねが移。移成るの者へえん
さアまき年いりねぐどんうふゆり利くおさうう
おさううさうさうさう「小強さん人ふのぢわア移清内はえん
あまれさうあちふりさあせさるのさ。ちのちと耳の穴
あ

あう咽く笑あ。まのまの勝るねいのい人ぐはくと
まけさく秋陽れあるお地がうさ。あちのやうさうの
さうさうあ人ぐ一箇ねこのふもあまう肩あが
さまのぢわアねう。あのやうふ相変と移くおさあ今ド
やうふあ移されてもつさうね。さうさうねとさ。今
秋元ね代あ成あああ。あまうのつさうねと
あい又あ

二卷

[illegible]

お小波さんおとやんのゆづおめもとげきとツちやア播おき
 ぐ。今日けふ播ちやきくききおふらふらるを打うち明あきるも振ちやうとん
 ちやアうづ。ぎうう那那那ふ世せ張ちやう張ちやう一いちくゆひてめん
 ぐ且え那もゆひうちをる気き性しやううう。つゝちひて播かの
 づらと一いち敷しきとちやア貴き張ちやうおてりひとちやアうう那あ子
 ぢやア友ともくち張ちやうやうと播かううゆひちやアううがね
 ちやアへおまさん那且え那えぐうとさちおひちちちやアゆち
 ちやアううぢやアゆちちやんうゆ一いち男おとこハううちやうとちや
 ちや

[illegible]

今更む之由先へ申す所なり。先生の
 御付し入るべき事。又し又きくはる程男のえをドおはれ候は
 れと後心成されんまげたまれるかぬぞ。まづそんな
 との後心とて酒成せるやうの○小強はありぬ
 表の方より所へうくとまゐりてある様也。一
 いさゝかの聲に答ふものなりとてうんとくのかあ
 あやくへむろひえみよあ。○小強はありぬ
 よめくちがえある家の様業まつるも赤縄の端



[illegible]

いふ
きこむのもあれど。デゴウラよの所で。一匹冷やぶ人目の
あまびさうぞ喰ふ中暮の。物持と笑くをたまにわくおれ是
てさうつ合へんあめの形下ト　ふみきり紙はすをえ　まゝまが
まゝせま　それ小童　「せんあう喰ふのゑあまご
ト入送る小娘が胸のうち。終に極へ一実足ふ。どうもかき之様
お兄様とぞよく用ひたる。能くともたあふする血筋をけし
ちさう
兄弟のさうしるひをけやうふ不仕合そとちあま。あまを
うーうー　素者へ小娘さんあうをお　三ツ　小童　「君。知れずー

ちののきき
第七段

此 貧乏の紙子の秋葉の罽あつた。と云ふ柳樹のうぐちあり。奥
 まさき へんぞをもち。素うまう 男 常衣の無男才々。まゝ不忠の老あうわど。實は六塵乃
 けりやあや ひともしもをり 樂歌多しと報答厭離あるべし。ま中みえ彼まどしの
 ひろやわがごまのそで。と云ふ好法所 も書めされ 如くまじ
 のまどひみ身を亡し子信ぢあり 初めより大満阿の地錦
 花ややりえ 事うら 光る ありや 同屋垢ぬくのうらまは成りて己が書めある為に
 さあ 方へ紙けりなくありける。さう 落着かとのまらみ忘る



[illegible][illegible]

[illegible]

今ふ丁^{あとうど}交^{あまひ}ありあるが余^{あまひ}人^{あまひ}がよきぞうい
 ざうそん^{あまひ}をとりあふ^{あまひ}のうい^{あまひ}方^{あまひ}ぶじとて来^{あまひ}ふ小^{あまひ}懐^{あまひ}えあうかう
 しくや^{あまひ}わ^{あまひ}ト^{あまひ}は^{あまひ}る^{あまひ}さ^{あまひ}も^{あまひ}又^{あまひ}那^{あまひ}那^{あまひ}が^{あまひ}と^{あまひ}かう^{あまひ}しくあ^{あまひ}げ^{あまひ}る^{あまひ}
 トあ^{あまひ}あ^{あまひ}角^{あまひ}袋^{あまひ}の^{あまひ}へ^{あまひ}ち^{あまひ}生^{あまひ}あ^{あまひ}
 ありと^{あまひ}成^{あまひ}え^{あまひ}き^{あまひ}ひ^{あまひ}と^{あまひ}作^{あまひ}者^{あまひ}相^{あまひ}あ^{あまひ}そ^{あまひ}う^{あまひ}に^{あまひ}英^{あまひ}顔^{あまひ}は^{あまひ}女^{あまひ}番^{あまひ}英^{あまひ}妻^{あまひ}番^{あまひ}
 まきん^{あまひ}兒^{あまひ}の^{あまひ}あ^{あまひ}や^{あまひ}ど^{あまひ}あ^{あまひ}ね^{あまひ}あ^{あまひ}が^{あまひ}
 浜^{あまひ}山^{あまひ}ゆ^{あまひ}求^{あまひ}の^{あまひ}種^{あまひ}と^{あまひ}帝^{あまひ}上^{あまひ}ま^{あまひ}び^{あまひ}下^{あまひ}き^{あまひ}冬^{あまひ}の^{あまひ}雪^{あまひ}成^{あまひ}き^{あまひ}う^{あまひ}横^{あまひ}

溪山
壑

春秋二季種初編卷之下畢

里の花 春秋二季種 第二編 三冊 花街樓 春馬 著
川の月 柳烟樓 國直 圖

この編は小文の情多き一冊のちのちの後にあり 菅原の國直の久しきに
と改題しとせしと自らくゝる人懐きつてをより 志す風情の
とつちを春と秋とて 世に世に 芳名あり 清評を希ふ

書房 金幸堂

東都戯作者

三亭春馬著述

東都浮世師

歌川國直画圖

東都書房

金幸堂

菊屋幸三郎梓

東都

